

91 木造地藏菩薩立像

東光寺(真言宗・津久井)

寄木造 玉眼 肉身部金泥・着衣部褐色漆塗

像高六四・三

室町時代

像容は頭上を円頂とし比丘形、裙・僧祇支を着け、袈裟を通肩に懸ける。左手の掌に宝珠をのせ、右手に錫杖を持ち、挙身光背を配して蓮台上に立つ通常の形姿である。

構造は頭・体部いずれも前後矧ぎで、内刳りを施して玉眼を嵌入。胸部肉身部は頭部前面材と共木、両側面材を矧ぎ寄せ、両手首先・両足先は別材である。

像は量感があり、頭体のバランスもよく、張りのある男性的な面貌、深淺自在に刻まれた写實的な衣文表現など、慶派風の造形を継承しているが、裳裾の表出などに形式化がみられる。室町時代の作であろう。

なお、着衣形式で僧祇支(覆肩衣)の衣端を右脇から正面を通し、左腕前膊に懸け、外側に垂らす珍しい服制をみせている。類例も希れで図像的にも興味ある作例である。



地藏菩薩立像 東光寺